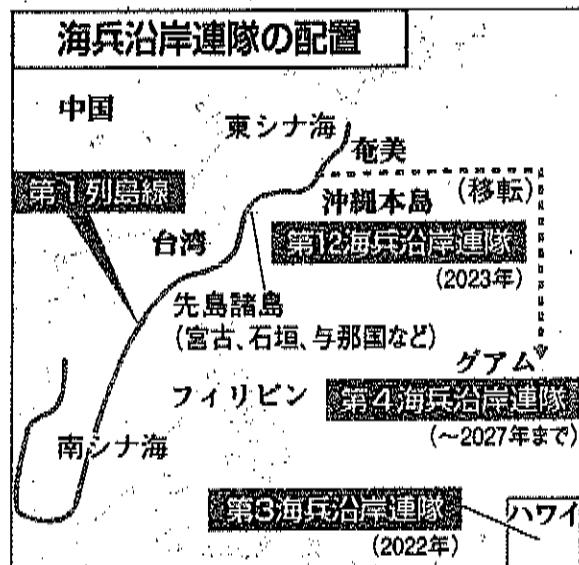


米海兵隊、沖縄に新部隊

対中戦想定 戰場化 危険増す

米海兵隊は15日、米中軍事対立の最前線である「第1列島線」を主戦場とする新部隊「第12海兵沿岸連隊（12MLR）」を沖縄県に創設しました。自衛隊との統合を強め、沖縄をはじめとした「第1列島線」の島々を主場に中国との戦闘を想定。南西地域の戦場化の危険を拡大させるものです。

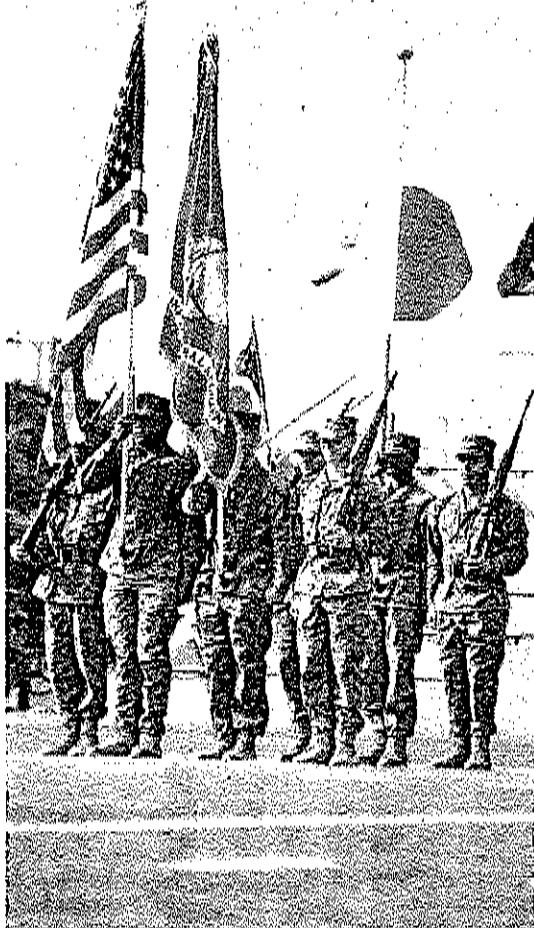
→関連2面



ワートマン司令官は「自衛隊との統合を進める」とで能力を強化する」と強調。南西地域で配備が進む敵基地攻撃能力・長射程ミサイル部隊との統合が念頭にあるとみられます。

司令官「自衛隊と統合へ」

同日、キャンプ・ハンセン・リングハム司令官は「われでも、どこででも必要な紛争（同県金武町など）で開かれた発足式典で、エルト ていることは誇りだ。いつた。また、第3海兵師団の



第12海兵沿岸連隊の発足式典=15日、キャンプ・ハンセン（沖縄県金武町）

キャンプ・ハンセン（名護市）に配備されている第4海兵連隊をグアムに移転し、3番目の沿岸連隊に改編します。12MLRは、今年1月11日の日米安全保障協議委員会（2プラス2）で創設を合意していました。

M.L.R.は、海兵隊の部隊再編計画「フォース・デザイン2030」に基づいて編成。離島を制圧し、臨時の戦闘拠点を設ける「遠征前進基地作戦」（EABO）を専門とし、△長射程ミサイルで敵の艦船・航空機を攻撃する△F-35Bステルス戦闘機などの離着陸拠点を確保する」といった作戦を行います。昨年3月、最初の部隊がハワイで創設され、沖縄の部隊が2番目となります。さらに、沖縄のキャンプ・シュワブ（名護市）に配備されている第4海兵連隊をグアムに移転し、3